近世ヨーロッパの文化と東アジア研究会

東アジアへの西欧の知の伝播の研究

2021 年度第 1 回公開研究会

【日時】

2021 年 8 月 23 日（月）

13:30~16:00

【開催方法と申し込み】

Zoom によるオンライン開催

参加希望の方は、2021 年 8 月 20 日までに右の QR コードか URL よりお申し込みください。前日までに接続先をメールでお知らせします。

https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZEtde6ppjouHd1sgIBl2AhWZO8mELhUa-8W

13:30-13:40　総合司会・開会挨拶：
野原慎司（東京大学准教授）

13:40-14:40　報告 1 ：小野塚知二（東京大学教授）
「美、風刺、「封建的自由」：ホガースと近世日本の形象表現のずれ」（仮題）

14:40-14:55　休憩

14:55-15:55　報告 2：有江大介（横浜国立大学名誉教授）
「西欧社会経済思想の 19 世紀後半東アジアへの波及：明六社知識人と厳復たちの翻訳」（仮題）

※各報告には質疑応答の時間を含みます

15:55-16:00　閉会挨拶：石原俊時（東京大学教授）

EAA
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS
東アジア藝文書院

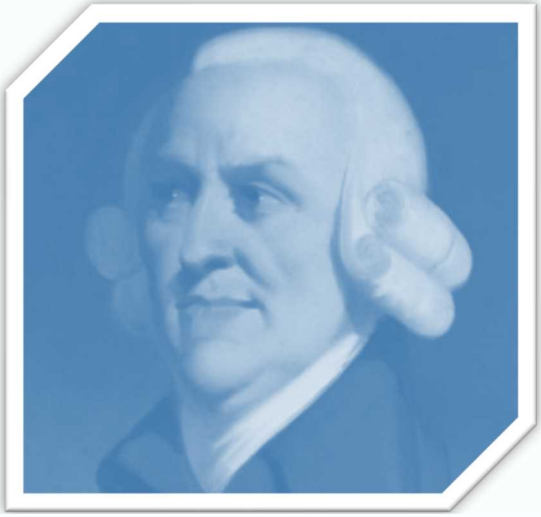
知の継承
2020-2023
経済学図書館創設 120 年
スミス文庫寄贈 100 年
経済学部資料室創設 110 年

近世ヨーロッパでは、経済学の創始者として有名なアダム・スミスをはじめ、近代の学問を形作る人物が出現した。明治維新以降、日本が近代化する際、それら西欧の知が基礎となった。西欧の知・学問の受容により、日本は、西欧に肩を並べる国になろうとしたのである。

なかでもアダム・スミスは、西欧の経済成長の秘訣を明らかにしてくれるものとして着目された。その着目が基盤となり、新渡戸稲造は、東京大学所蔵のスミス旧蔵書を購入した。その後も、東京大学教授・総長であった大河内一男は、西欧の文化を象徴的に表すウィリアム・ホゥガースの版画を購入し、コレクションとした。

これらを踏まえ、本研究会は西欧の知の受容に迫るものである。

【この研究会はどなたでも参加できます】



【共催】

・東京大学東アジア藝文書院（EAA）

・東京大学経済学図書館・経済学部資料室